

web版

ことぶき共同診療所だより

第 42 号

2016 年 12 月 28 日 発行

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1・2F
電話とファックス 045-651-2305(診療所) 045-305-4322(鍼灸院・資料室)

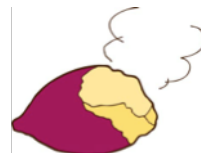
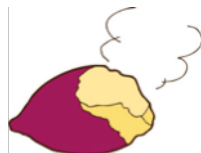
E-Mail info@kyoudouclinic.com

<http://kyoudouclinic.com>

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目 次

2016 年下半期をふりかえって.....	鈴木 伸 ②
第 15 回診療所大運動会	鳥潟 恭子 ④
第 20 回ポレポレまつりに参加して.....	船崎 葉子 ⑤
“診療室から”(38) - ことぶきの珍客達 -.....	源川 俊介 ⑥
寿町関係資料室コレクション	松本 一郎 ⑦
- 【4】金井芳次『私の労働運動史』 -	
寿町地域ニュース・あらかると('16年7月~11月)	松本 一郎 ⑧
関係機関☆紹介 - ぷれいす -.....	須田翼・岩崎八千代 ⑨
診療所日誌('16年7月~11月)	矢島 雅子 ⑪
共同診療所・鍼灸院ガイド	⑫



2016年下半期を ふりかえって

【激動の2016年ももう終わりです】

早いもので2016年も、もう残りわずかとなりました。今年はこちら10年間でもっとも厳しい寒さとなっており、インフルエンザも早い流行となっており医療的にも厳しい冬が予想されます。政治的には日本でも、欧米でも大きな動きがあり、戦後作り上げてきた大きな枠組みが一気に崩れていくような不安があります。あまり明るい見通しが無い昨今ですが、いたずらに悲観的になっていてはしょうがありません。日本ではほとんど協議されることなく強引に国会を通過した「TPP」が、まさかのトランプ大統領誕生で「PPAP」(ペンパイナップルアプルペン)的に阻止されるという意図せざる結果になることもあるわけですから。

というわけで、今年の下半期を振り返ってみたいと思います。

【俊夫さんを偲んで ～俊夫さんを語る会を開催しました～】

当診療所の先代院長である田中俊夫さんが去る6月26日に76才で亡くなりました。

昨年の忘年会には元気な姿で参加し、はつらつとした声で話をされていたのですが、1月頃より急激に病状が悪化。一

番参加してほしかった診療所20周年にも参加できなかったのが非常に残念でした。「俊夫さんロス」とでもいうようなさみしさを抱えながら、しかし、患者さんとの診療は日々続く中で悶々とした日々を送っておりました。私たちの気持ちを整理しながら、俊夫さんとの思い出を振り返り、俊夫さんの意志を引き継ぎたいとの思いから、11月27日に、「俊夫さんを語る会」を診療所のデイケアルームで開催しました。患者さん、友人、関係者など俊夫さんと親交のあった方が40人以上集まり、AAのミーティング方式で一人ずつ俊夫さんとの思い出について語っていただきました。

俊夫さんは1965年に寿生活館相談員として働きだしてから、まっすぐ寿町を見つめ、様々な活動の先頭を切って行動し、仲間を募り、住民のために尽力されてきました。そんな俊夫さんが取り組まれてきた課題と、最近世間で問題になっている課題－子供の貧困であるとか、不安定雇用の方々の生活の問題、健康格差の問題－は時代は異なるものの、実は共通の問題が多いということに気づきました。そして、俊夫さんたちはこうした問題に、並みならぬ情熱をもって、試行錯誤しながら、真向から取り組み、多くの

遺産を残してくれたということが改めて実感できました。その遺産を引き継ぎ、よりよいものにしていくのが残された我々の世代の責任なのだという思いを強くしました。

【ポレポレ祭りに参加しました】

10月29日に本牧いずみ公園でポレポレ祭りが開かれました(「ポレポレ」とは、スワヒリ語で「ゆっくり」という意味だそうです)。横浜市中区内の障害者団体・施設が一同に会し、自主製品の販売や日頃の活動を披露するお祭りです。当院のデイケアメンバーは、キーホルダー等の販売に加えて、今年は普段の音楽プログラムの成果を発揮し、ステージで「花は咲く」「糸」という歌を披露しました。普段シャイな患者さんもこのときばかりは堂々と力を発揮していました。出店の方も頑張り、他の施設の方々とも交流して楽しい一日を過ごせたようでした。

【大型新人登場 中島康至さん】

当診療所の患者さんは、そのほとんどが寿町の住人であり、その高齢化速度

は一般地区と比べても激しいものがあります。実は診療所スタッフも(私を含めて)高齢化が進んでおり、若手の職員が来てくれないかと日々待っておりました。そんな中で期待の新人が現れました。中島康至さんです。中島さんは当院に勤務されている郡司さんからの紹介で今年の10月15日から週1回デイケアに勤務しました。まだ10代の学生ということで、当診療所の職員の平均年齢を一気に引き下げてくれました。過去にある病院で実習したところ、

デイケアの雰囲気がとてもよく、それで精神科に興味を持つようになり現在専門学校で勉強中です。勉強熱心で、様々なことに疑問をもち私も早速質問攻めにされました。教えなくてはならない状態に追い込まれると人は一番勉強します。私も以前塾と予備校で長年講師をし

ておりましたが、教えるためには自分の受験の時以上に勉強したことを思い出しました。

というわけで、中島さん、これからもわからないことがあったらどんどん質問して私たち職員を追い詰めて勉強させてください。
(鈴木 伸)

「ことぶき共同診療所 20周年記念誌」が刊行されました！

開設20年のあゆみ、診療室・鍼灸院・精神科デイケア・受付・相談室・心理検査・総務・資料室からの報告の他、関係機関・見学実習参加の方からも寄稿していただきました。また、寿町および診療所の年表も掲載しています。



第15回診療所大運動会

今年の秋は天候不順続きで、それが今野菜の値段によく表れている。そんな秋だったが、運動会当日は、雨も降らず、外で体を動かすには気持ちのいい空模様だった。

診療所運動会の一番の見せ場は綱引きである、と断言しても、誰も否定できないと思う。祭りのピークみたいなもので、普段は「〇〇が痛い」「具合が悪い」を連発するデイケアのメンバーでさえ、嬉々として参加する。去年もその前も、力いっぱい綱引きをしたから筋肉痛に悩まされたはずなのに、今年も飛び込んでいく。そしてついつい

浮足立って競技準備中の綱に触り、川崎さんに「こらっ」と怒鳴られる。皆、待ちきれないのだ。そして、この見せ場の綱引きで勝てると運動会に勝てる気がする。

赤組=診療所デイケア合同チームが対する白組は、寿アルクのメンバーがメインのチーム。お酒を飲んでいないのだから強い。ここ数年、赤組は白組に負けてばかりだった。

ところが今年の綱引きが始まってみると、

まず赤組が一勝した。綱引きというのは陣地替えをすると、前戦の勝利が幻だったかのように負けたりするものだが、すっきり二勝してしまった。赤組の皆に、笑顔がはじけた。そして赤組が総合優勝した。

きっと来年は、山田統括に叱咤激励さ

れ、1年間節制しトレーニングした白組=寿アルクがとても強くなってやってくるだろう！ 赤組=診療所デイケア合同チームも運動して体を鍛え、来年の秋、余裕たっぷり競技に臨めるように。寿町の人々が、そんなふうに楽しく健康を思えるイベントへと運動会が定着して

いったらいいなと思った。

寿アルク、ことぶき介護、寿町勤労者福祉協会、ことぶき福祉作業所、就労継続支援 B 型ふれいす、浜っ子サービス、寿福祉プラザ、訪問看護ステーションコスモス寿、寿福祉センター保育所をはじめご協力いただいた関係機関の皆様、赤組白組参加者の皆様、ありがとうございました。また来年笑顔で会いましょう！

(鳥潟 恭子)



第 20 回 ポレポレまつりに参加して

10月28日、本牧で行われた第20回ポレポレ祭りに参加しました。去年に続いてメンバーの皆さんで作り貯めたキーホルダー、アクセサリー、絵葉書き、裂き織り班の作品を並べ、販売をしました。

残念ながら、売り上げは振るいませんでしたが、のんびりしたお祭り気分を十分に満喫してくださったように思います。

今年は、店頭販売ともうひとつ、新しいことにチャレンジをしました。ポレポレ祭りの会場には、本牧地区の学校、施設、各団体の方々が演奏、ダンスや演芸を披露するステージが設けられます。今回、私たちも合唱でエントリーさせて頂きました。御馴染みの「花は咲く」と中島みゆきの「糸」の2曲を歌わせて頂きました。

メンバーが見知らぬお客様の前で歌うのは、これで2回目。前回は、ことぶき共同診療所創立20周年の集まりでした。

今回も篠笛奏者の松尾慧さんに演奏サポートをお願いして、デイケアスタッフもいっしょに舞台にあがり、2曲を歌わせてもらいました。お客様を目の前に、屋外のステージで歌うのは、さぞや皆さん、緊

張するに違いないと予想していましたが、こちらの予想を裏切り、堂々と歌い切ってくれました。確かに間違わないよう、手元の歌詞カードから目が離せない方もいたし、後で聞いたら、緊張して足が震え

たという方もいらしたようで。それこそ、胸を張って、笑顔満面で歌う方や、遠くを見ながら晴やかに歌っていた方もいて。本当に人はそれぞれだなと思います。

何はともあれ、それぞれの楽しい時間であつたのならば、言うことなし。さてさて、今年のポレポレ祭りも、無事終了。

皆様、お疲れ様でした。

(船崎 葉子)



“診療室から”(38)



ことぶきの珍客達

診療所受付のとある男性職員です。時が経つのは早いもので、コトブキに来た頃は若手だったのですが、気付いたらおっさんになってしまっています。そんな、毎日受付にいる私ですが、長年働いていると色々な患者さんがやってきます。中々個性的な方がいっぱいいらっしゃいますので、ご紹介したいと思います。心当たりのある方はあの方のことだなあと心の中で楽しんでください^^。

最近では退院されてきてから落ち着かれたようですが、昔は「自分のことを神様と呼んでください」とすれ違う人に声をかけている人や夕方に来て台車に乗せ炊飯器を乗せ来院し米を炊こうとコンセントをさしたものの水を入れ忘れ諦めた人や受付に名前を書きながら「あと何番目ですか？」と若干喰いぎみに妙なアクセントで話し、待合の長椅子に横になり、あたかも自宅にいるかのようにくつろぐ人や診察日でもないのにお茶だけ飲みに来て「せっかく来たから診察してくれ！」と暇つぶしで来院する青森訛りが強い人や寝ぼけて T シャツは着ているのに何故か下半身すっぽんぽんで来院した方.... などなど、印象に残っている方が来院されます。

ある意味、この医療機関らしからぬ雰囲気のアットホームな診療所だからこそ来院しやすいのかもしれないですね。

(源川 俊介)

寿町関係資料室コレクション

【4】金井芳次『私の労働運動史』（小倉印刷、1966 年 1 月、全 357 頁）



金井芳次(1898-1974 年)は、愛媛県生まれ、神奈川の労働運動の活動家・オルガナイザーであった人である。職業は、主に、新聞記者、沖仲士、政治家（横浜市会議員・神奈川県議会議員・衆議院議員）と多彩であった。本書はその戦前期を中心とする自伝である（編集・補訂加筆は中出栄三）。藤木幸太郎が「序文に代えて」を、飛鳥田一雄が「序文」を、横浜市労連委員長が「推薦の辞」を書き、本文に入ると『共産党宣言』の引用から始まる。日本大学在学中に社会主義の洗礼を受け、米騒動の翌年、1919 年より横浜港の沖仲士（港湾日雇労働者）となり、木賃宿で暮らし始めた。しばらくして、常用労働者になっている。

金井の内的動機は「まずわが実践活動の第一歩は横浜から。」であり、沖仲士の労働条件改善を目的として、横浜の港湾労働者となった。そのため、行動は素早く、すぐに沖仲士同盟準備会をつくり、荷役業組合に対して賃金 2 割増しの要求書を提出した。だが要求は退けられ、ストライキに入っている（横浜沖仲士の大争議）。この流れで横浜港沖仲士同盟会が生まれ、1920 年 5 月 1 日横浜公園での発会式が行われた。ちなみに、日本の第 1 回メーデー（友愛会主催）は、上野公園を会場として同年 5 月 2 日開催されたと一般にいわれる。神奈川はその 1 日前に行われたので、金井たちは、横浜公園の方を第 1 回メーデーと名付けたそうである。

本題からやや逸れたが、本書はもともと、寿町の前史となる、戦前の港湾労働事情を調べている時に、白土秀次『ミナトのおやじ・藤木幸太郎伝』と出会い、その中で紹介されていたので知ることになった。入手困難な状況にあったが、何とか入手したものである。金井は、木賃宿に泊まっていた期間はそう長くは無かったと思われるが、中村川両岸に多くあった木賃宿、人足部屋について、次のように生き活きと描写していた。内側からの、戦前の港湾労働者の生活の様子は、ほとんど文章になっておらず、その意味で貴重である。

木賃宿から、毎朝仲間につれられて波止場に日参した。今日でもそうだが、中村町石川町通りの、中村川沿岸には沖仲士のための安宿が一杯あった。夜の明け切らぬうちに、手かぎ一本もって、波止場の人足たまり（今日の寄り場）で列をつくって待っていると、やがて「角」という木の札を世話役がくれる。…たいていの沖仲士は親方たちの営む「部屋」に起居していた。部屋頭の上に大世話役の親方代理があって、これが夜の白々明けるか明けないうちに、部屋の外から、大声で、

「時間だぞう。起きなきゃけっ飛ばせ」

吐鳴り散らして廻る。（部屋はたいてい数戸十数戸と棟割長屋になっていた。）この声を聞く

と、部屋頭（へやがしら）は、情け容赦もなく、寝ているものを叩き起こすのだ。

部屋はまるで掘っ立て小屋にひとしい。板敷にアンペラ[ムシロのことー松本]を敷いているだけで、畳を敷いたものはごく稀であった。せんべい蒲団にくるまって寝るだけだから冬の夜などはなかなか寝つかれない。夏は夏で、南京虫や、蚊の大群がところ嫌わず喰い廻るのでこれもなかなか寝つかれない。

部屋頭に叩き起こされて、ねむい目をこすりながら、汁かけ飯をあわてて空きっ腹にかき込んで、急いで、波止場につけつというのが当時の沖仲士の日常であった。（同書 18-19 頁）

この記述からは、木賃宿が中村川両岸に多く立地していた事実（本紙 38 号も参照）、日雇労働者のための安宿の一形態であったこと、人夫部屋は常雇とはいえ不安定で劣悪な居住環境にあったことも分かる。やはり、木賃宿は日雇労働者の住の役割があり、戦後、形を変え、（全てではないが）簡易宿泊所となったのではないだろうか。なお、人夫部屋は、その封建的労働形態ゆえに、戦後になって、憲法、労働基準法等の法整備がなされ、基本的に解体された（あるいは残余化）。

最後に、当時の港湾労働者の状況を紹介しておこう。神奈川縣匡済会施設沖仲仕休憩所編『横濱港に於ける沖仲仕の調査』（1925 年）によれば、当時の港湾労働者の人数は、1919-20 年頃に沖仲仕は 1 万数千人、不景気の悪化した 1925 年でも約 5,000 人、沿岸仲仕の約 3,000 人と合わせて、7,800 人であった。同報告書では、「朝夕埠頭に往来したる人夫の雑沓は、実に騒然たるもの」と記されている。ここには、貿易拠点として急激に発展する横浜の、港湾労働者の労働力需要の大きさが示されている。一方、港湾労働には、前近代性や矛盾・コンフリクト（労働条件、社会保障、居住の質や量の問題など）があり、労働運動は必然的に生じた。その草創期の一端を本書で知ることができる。

（寿町関係資料室 松本一郎）

寿町地域ニュース・あらかると （'16年7月～11月）

【国の貧困対策関係】厚生労働省、「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部」[7.15]、「地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会（地域力強化検討会）」[10.4]、「生活困窮者自立支援のあり方等に関する論点整理のための検討会」[10.6]、「生活保護受給者の宿泊施設及び生活支援の在り方に関する意見交換会」設置[10.21]／財務省が生活保護利用者の医療費自己負担や受診回数制限を提言[10.28]／「子どもの未来を応援する首長連合」（6月設立）が政府へ提言[11.12] 【センター（寿町総合労働福祉会館）】解体進行中（11月）【簡易宿泊所】白樺荘建替新築予定[11月現在更地に鉄板敷設]／東日本港運横浜営業所跡地に簡宿建築中（あさみ館とロイヤル石川の間）[11月] 【選挙】参院選神奈川選挙区で立候補した森英夫氏（社民党公認）、76,424 票で落選[7.10 投票] 【就労支援】就労継続支援 B 型事業所「ふれいす」設立（寿町 3-9-7MM ビル 2 階）[8.1] 【介護】合同会社 with leaf「よつばの介護」設立（吉浜町 2-15 上智ビル 2 階）[7.1] 【アルコール】第 2 アルク生活訓練センター設置、第 3 アルクは第 2 アルク地域活動支援センターへ[11.1] 【交流会】「全国地域・寄せ場交流会」が三浦市ふれあいの村で開催[9.24-25]

※ 寿町に関する国・自治体の政策等も一部含まれます。

（寿町関係資料室 松本 一郎）

関係機関☆紹介

はじめまして 就労継続支援B型事業所「ぷれいす」です！

NPO 法人寿クリーンセンター センター長 須田 翼
就労継続支援 B 型事業所「ぷれいす」 岩崎 八千代

第 1 期横浜市中区地域福祉保健計画の取り組みの中で、「寿町に関係する失業者、特にアルコール依存症者、薬物依存後遺症や精神障がい、その他様々な困難を抱えることにより就労の機会から排除されてきた人々が無理なくその能力に応じた仕事に就ける仕事とは？」について話し合ってきました。

話し合いの中で、障がいを持つ労働者は仕事をするのが回復に向けて最も効果的であるということ、しかし一方で、仕事のストレスによって再発のリスクを高めたり、病状を悪化させてしまうという側面も明らかになり、各人が自身の意思に応じて働くことが出来る仕事を作ること！で意見が一致しました。仕組みは特に難しくありません。働けるときに働き、働けないときは気兼ねなく休む。ストレスの少ない仕事場として、2008 年 2 月に NPO 寿クリーンセンターが立ち上がりました。

8 年が経過し、寿クリーンセンターでは、行政や医療機関等から紹介されてくる様々な方々の望む働き方にさらに応えていけるよう、2016 年 8 月 1 日に就労継続支援 B 型事業所「ぷれいす」を開所しました。「ぷれいす」は、障

がいのある人も、ない人も各々が自らの能力の範囲で役割を果たし互いに不足を補いながら同一基準の賃金を受けとることが出来る労働の場づくりを目指しています。

就労継続支援 B 型事業所は、一般企業等への就労が困難な障がいを持つ方に就労機会を提供するとともに、生産活動を通じて、知識と能力の向上に必要な訓練などの障がい福祉サービスを供与することを目的としています。

「ぷれいす」は、働くことと同時に、働くことを通して見えてくることに対して、何が出来なのかを考え、出来ることを無理をせずやって行く場所です。しかしまだ、開所したばかりのため、事務的な手続きや利用者さんが仕事をして工賃を支払うための受注作業など手探りで対応しているというのが現状です。が、一つひとつのことが「ぷれいす」で働くスタッフや利用者さんにとって、力となっているような気がします。これからも地域の方々とも関わり共にいきいき生きる居場所・働く場・交流の場を作っていきたいと思って、取り組んでいます。

お 願 い

現在、寿クリーンセンターと「ぷれいす」では、安定した運営を目指して、障がい者、一般就労が困難な方の就労支援、居場所の機能を果たす理念を掲げながら、日々仕事に取り組んでおります。しかし、そのためには、まとまった資金が必要であり、まだまだ不足している状態です。

そこで、ことぶき共同診療所様にご協力いただき、「寄付と貸付金のお願い」を添付いたします。趣旨をご理解の上、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

就労継続支援 B 型事業所ぷれいす
立ち上げ支援のための寄付と貸付金のお願い

私たち NPO 法人寿クリーンセンターは横浜市中区寿地区で 8 年間、引っ越し・引き払い・リサイクルショップ事業を継続してきました。当初から障がいを持った方や一般就労が困難な方の就労支援、居場所としての機能を果たす理念を持ち、その役割を担ってきました。

2016 年 3 月、寿町総合労働福祉会館の建て替えのため、退去を余儀なくされましたが、新規店舗への移転と同時に事業の安定化と様々な就労支援を求める方たちの声に応えるために、8 月 1 日就労継続支援 B 型事業所ぷれいすを立ち上げ、4 名の利用者とともにスタートさせることができました。

ぷれいすの開設にあたっては、事業所として要求される各種設備の整備及び人材の確保などのため望外の資金を必要としました。加えて、利用者が 10 名～15 名程になり安定した額の自立支援給付金の給付を受ける体制を作るまでには、まだまだ時間を要し、その間の施設維持費、人件費、家賃等は、全て寿クリーンセンターが支えていかなければなりません。

ぷれいすと寿クリーンセンターの事業の安定継続のためにまとまった資金（目標金額 500 万円）が必要です。寿町において「仕事」に結びつくことの意味は大きく、私たちは寿クリーンセンター 8 年間の経験に基づくぷれいすの可能性を、多くの皆様が共有していただけたらありがたいと願っています。ぷれいすの事業をご理解いただける方のなかで、寄付または貸付金のご協力をいただけたら大変ありがたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

記

★寄付＝おいくらでもお気持ちの金額をお願いいたします。

★貸付金＝一口一万円。何口でも 返済は 5 年後、無利子でお願いいたします。別途借用書を発行いたします。

振込口座：横浜銀行 元町支店 普通口座 口座番号：1692127

口座名義 特定非営利活動法人 寿クリーンセンター

お振込を検討してくださる方は、寄付および借入金の区別をするために、下記の連絡先にご一報下さい。

〒231-0026 神奈川県横浜市中区寿町 3-9-7 MM ビル 電話 045-633-2608

E メール info@kotobuki-clean-center.org

特定非営利活動法人 寿クリーンセンター 理事会 理事長 村田由夫
副理事長 鈴木 伸
副理事長 森 英夫

診療所日誌 '16年7月~11月

7 月 俊夫さんロスの診療所

- 5 日 藤枝さん、俊夫さんが亡くなって以来初めて診療所へ顔を見せる。
職員川崎さん、公園作業で蜂に刺される。人生初点滴とか。
- 6 日 デイケア K さん、行方不明事件続く
- 10 日 診療所のポスト荒らされる。ポストの中に入っていたものが、ゴミ捨て場に…。
- 12 日 がんの手術後で胃管の入っていた I さん、管が抜けて食事を食べ始める。
- 22 日 デイケア A さん、飲酒止まらず。“お袋もドロボーだ”と言ったり、言動おかしいとドヤの管理人さんから電話あり。
- 26 日 患者 K さん、お金の預け先が変わったことで大騒ぎ。
- 28 日 救急搬送の W さん、南京虫発見されると救急隊が毛布をはがす。

8 月 今年の夏も暑いです

- 2 日 患者 A さん、駐輪場で倒れているところを通行人に発見され、警察に保護。認知症のおじいちゃんと間違えられたらしい。
ターミナルの S さん、支給日にこだわり退院してくる
- 3 日 昨日の S さん、土屋医師と共にりそな銀行に行きお金を引き下ろし、支払いを済ませ満足。
- 4 日 昨日の S さん、ようやく入院。
- 5 日 ことぶき共同診療所 20 周年誌発送。
- 17 日 デイケア A さん、自室に帰れず行方不明になったりで入院。長谷川 7 点。
明日の流しそうめんの準備でデイケア M さんも竹割りにいそしむ。
- 18 日 デイケア、夏のイベントで、流しそうめんとスイカ割りを吉浜町公園で行う。
- 24 日 ぷれいすに仕事の依頼をする。
- 25 日 精神科に入院中の N さん、骨折のフォローのため毎週寝台で受診となる。
- 30 日 患者 M さん、受付張り付き続く。
- 31 日 新患さん、寝台で受診。要入院状態で 17 時近かったのにもかかわらず、神奈川病院が受けてくれる。神だ。

9 月 治療拒否ってなんだろう

- 7 日 K さん、M さん、診療所に籠城。

- 14 日 脱水で救急搬送された方、治療拒否がある
と入院にならず、困り果てたヘルパーさんが診療所へ連れてくる。明日、入院予定。
- 15 日 昨日の方、ヘルパーさんが訪問すると呼吸停止しており、市大に救急搬送、死亡確認される。
- 24 日~25 日 デイケア稲子へ。雨降りのためバーベキューは中止。輪投げ大会、パン食い競争行う。25 日は白糸の滝まで行く。

10 月 デイケアのみなさま、発表の練習がんばりました

- 5 日 長く通院されている K さん、目が見えなくなったと眼科受診。がんが見つかる。
- 6 日 患者 U さん、大声出したり警察呼ばれたり…。入院先あたるが 10 件以上断られる。
- 7 日 昨日の U さん、警察と共に診療所へ。
- 13 日 患者 Y さん、“食事をとらないと入院”の言葉に根性で食べ始める。そばを 4 時間かけて食べ、のびのびだったとか。
- 15 日 中島康至さん、毎週土曜日学生アルバイトで勤務開始。
- 18 日 デイケア、町の防災訓練に初参加
- 29 日 デイケア、ぼればれまつり参加。初めて舞台上で歌を披露。

11 月 「語る会」を開催しました

- 2 日 患者 T さん、酔っ払って職員を殴る
- 12 日~13 日 職員旅行(於：鴨川)で鴨川シーワールドとマザー牧場。子ども遠足です。
- 17 日 認知症の U さん、行方不明になったと思ったら、なんと空いていた隣の部屋で発見。
- 23 日 元デイケアメンバーで長く通院されていた K さん、寿から離れた自慢のアパートで亡くなる。訪看のコスモスさんにもずっと支えられていました。
- 27 日 「田中俊夫さんを語る会」開催。
(矢島 雅子)

おわびと訂正

本紙前号(41 号)の表紙「目次」の執筆者名に誤りがあり、おわびします。また以下の通り訂正いたします。

誤：佐藤 吏津子

正：鈴木 吏津子

医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

◇診療科目 精神科 神経科 心療内科
内科 整形外科 鍼灸
診療所

	9時30分	12時	14時	17時	診療科目
月	休診				
火	鈴木伸・天田(第1・3・5)・渡部(第2・4)		鈴木伸・天田(第1・3・5)・渡部(第2・4)		精神科・神経科・心療内科・内科
水	土屋・熊倉・越智		土屋・越智		精神科・神経科・心療内科・内科
木	鈴木伸・大脇・土屋・三橋(第3)		鈴木伸・大脇・土屋・三橋(第3)		精神科・神経科・心療内科・内科・整形外科
金	鈴木伸・土屋		土屋・吉廣・越智		精神科・神経科・心療内科・内科
土	鈴木伸・天田(月1回)・鈴木美奈子(月2回・エコー検査)・土屋(月1回)・野本(月1回)・熊倉(月1回)				精神科・神経科・心療内科・内科

※12-14時はお昼休み

鍼灸院 (鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください)

	9時30分	13時	14時	17時
火	新井・鈴木		新井	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新井		新井	
金	新井		新井	

※13-14時はお昼休み

○保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護 障害者総合支援法 (その他、医療福祉相談も受け付けています)

○心理判定

○寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

◇所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17
リバーハイツ石川町 1・2F

◇でんわとファックス

(045) 651-2305 (診療所)
(045) 305-4322 (鍼灸院)

◇e-mail info@kyoudouclinic.com

◇ホームページ

<http://kyoudouclinic.com>
2016年12月28日現在